

琉球大学学術リポジトリ

中学校保健授業における「広告分析」授業の検討 －生徒の思考力に及ぼす影響に関する一考察－

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学教育学部附属教育実践総合センター 公開日: 2011-04-13 キーワード (Ja): 広告分析, 思考力, 事例研究 キーワード (En): 作成者: 江藤, 真生子, Eto, Makiko メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/19050

中学校保健授業における「広告分析」授業の検討

—生徒の思考力に及ぼす影響に関する一考察—

江藤 真生子

Examination of “Advertisement Analysis” in Health Education

Makiko Eto

Key words : 広告分析 思考力 事例研究

I. はじめに

文部科学省の中央教育審議会の答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善について（平成20年1月17日）」において、学習指導要領改訂の基本的な考え方として、「思考力・判断力・表現力等の育成」が示された。そのための方法の一つとして、各教科において、それぞれの教科の知識・技能を活用する学習活動の充実が提唱された。

また、同答申において、保健体育科の課題として、保健に関しては「今後、自らの健康管理に必要な情報を収集して判断し、行動を選択していくことが一層求められることから、生涯にわたって自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育成するために、保健の内容の体系化を図ること」、「生活習慣の乱れが小学校低学年にも見られることの指摘があることから、小学校低学年における健康に関する学習について、学ぶ内容やその開始時期も含めて改善を図ること」が求められている。「健やかな体を育む教育の在り方に関する専門部会」においては、保健分野で「すべての子どもたちが身につけるべきもの」を審議検討する上で留意することの1つとして、「情報を収集し正しく理解し判断する力を育成していく」視点が示され、思考力・判断力の育成の必要性を示唆しているものと考えられる。

他方、WHO（世界保健機構）において、日常生活で生じる様々な問題や要求に対して、建設的かつ効果的に対処するために必要な心理社会的能力を「ライフスキル」と定義し（1993）、10の能力があるとされている。日本においては、JKYBによりライフスキルを形成することによる効果を検証する研究とライフスキル教育プログラムの開発が行われてきた。JKYBのライフスキル教育プログラムは、スキル習得の過程を「確認する」、「関係づける」、「練習する」、「応用する」のステップで構成され、参加型学習の形態をとる特徴がみられる。さらにこのプログラムは、L.W.グリーンらによって作られたPRECEDE・PROCEEDモデル（Precede - Predisposing Reinforcing and Enabling Constructs in Educational Environmental Diagnosis and Evaluation, Proceed - Policy Regulatory and Organizational Constructs in Educational and Environmental Development, 以下PPモデルと示す）を適用したものである。PPモデルは、対象となる地域・人々を評価してヘルスプロモーション活動を計画し、その計画を実行・評価するプロセスを示している。このモデルでは、ヘルスプロモーションの最終目標をクオリティ・オブ・ライフ（QOL）の改善としている。さらにQOLは健康と環境によってもたらされ、健康は「行動・ライフスタイル」と「環境」の両者から影響を受ける。「行動・ライフスタイル」は、3つの要因すなわち「前

* 沖縄市立美里中学校

提要因)・「強化要因」・「実現要因」の影響を受けるとされ、「前提要因」とは、対象者の健康に関する知識、価値観、態度などを、「強化要因」は家族や友人、職場の人々の協力など、「実現要因」は行動変容へつながる意思決定や目標設定などにかかわるスキルを示している。改善するべき行動に対してこれらの要因への対処を構造的に行うことが健康教育を効果的に進めることとなると思われる。JKYBのライフスキル教育プログラムはPPモデルを適用し内容を体系・構造化していることが特徴であり、プログラムの有効性については川畑(2002)や春木(2008)によって明らかにされている。青少年の危険行動防止に有効性を実証してきたプログラムの中に、喫煙防止のためのプログラム「NICEⅡ」がある。プログラム内容は学校の保健分野や特別活動において全7単位時間の計画とされている。内容は、喫煙の有害性等先行因子にかかわるものが多いように思えるが、グループによる参加型学習等があり、指導方法に工夫が見られる。これまでの講義形式による知識提供に偏る保健授業と比較しても知識を活用する学習活動を導入している点などは、新学習指導要領における思考力・判断力育成を目指す保健授業のあり方に示唆を与えるものと考えられる。

Ⅱ. 研究の目的

本研究の目的は、JKYBの喫煙防止教育プログラム「NICEⅡ」にある「広告分析」を参考に中学3年保健分野「飲酒・喫煙のきっかけ」単元を計画し、知識を活用する授業を実践することで生徒の思考力・判断力にどのような影響を及ぼしたかを検討することである。

Ⅲ. 研究方法

(1) 調査対象と実施時期

対象は、沖縄市立M中学校における3年生の女子35名とした。保健分野の大単元「疾病の予防と健康な生活」の「飲酒・喫煙のきっかけ」単元について、実施期間は平成22年10月から11月までの全6単位時間であった。授業者は教職歴14年目の保健体育科の女性教諭であった。なお、教科書(学研)においては、「飲酒・喫煙・薬物乱用の防止」と扱われているが、今回は「飲酒・喫煙」を中心に取扱

い、「薬物乱用」については別に後日指導を行った。

(2) 対象生徒の特徴と題材設定及び指導方針について

対象生徒は、単元はじめの第1時において、グループを編成し「健康」をテーマにブレインストーミング(以下BSとする)を行い、各グループから最も多いキーワードを集計した結果、「運動」、「食生活」、「病気をしない」、「日常」などの生活習慣に関わるキーワードが全てのグループで抽出された。これまでの学習や生活経験から、健康を保持しようとすることは主体である個人の生活習慣の影響が大きいことは理解できているようである。また、健康と飲酒・喫煙の影響や具体的な有害物質名等について、聞いたことがあるが内容については明確に理解していない様子が授業内で発言する内容からうかがえた。

生活習慣において飲酒・喫煙の習慣があるものとなないものとの死亡率に違いがあることもプレスローらの研究により明らかにされている。中学校段階での飲酒・喫煙に興味・関心が高まる時期に、飲酒や喫煙が体に与える影響を理解することは非常に重要であり、将来の健全な生活習慣を形成する基礎となると考える。飲酒や喫煙は、未成年者の問題行動であるがそのきっかけや動機は、友人や家族とのかかわりや環境によるものが大きい。飲酒や喫煙の有害性を理解することと他者や環境とのかかわりについて批判的に物事を思考することが将来の危険行動防止の一助となると思われる。そこで本題材は、喫煙や飲酒の有害性を理解した上で、他者(身近な経験者)や環境(広告等)の誘惑に、習得した知識を活用し批判する活動を導入し、身の回りの生活を振り返りその事例に対して、批判できる思考力を育成することを意図した題材設定とする。

(3) 授業の指導計画とその概要

表1は授業実践における単元の指導計画を示している。第4時に中心題材となる「広告分析」を実施した。単元全体を通して、アルコールやタバコの有害性について学習し、習得した知識を活用する学習過程を設定し、グループを編成し学習活動を進めた。

表1 単元計画の概要

1 題材名 広告を分析しよう

3年保健分野：単元「健康な生活と疾病の予防」

(「飲酒・喫煙・薬物乱用と健康」、「喫煙・飲酒・薬物乱用ときっかけ」)

2 題材の目標

- 飲酒や喫煙の有害性や実生活にある誘惑に対して主体的に考えようとする。【態度】
- 喫煙や飲酒の機会や動機となる広告や誘いに対して習得した知識をもとに批判することができる。
【思考・判断】
- 喫煙や飲酒の有害性と、他者や環境の影響を理解できる。【知識・理解】

3 指導計画

時間	学習内容	評価規準
1	健康の成り立ち	健康の成り立ちには主体と環境要因が影響することを理解する 飲酒・喫煙の習慣が影響を与えることを理解する
2	飲酒の害について 実験①パッチテスト	飲酒の害について理解する
3	喫煙の害について 視聴覚教材 (ビデオ)	喫煙の害について理解する
4 本 時	広告を分析しよう	飲酒・喫煙のきっかけは他者や環境に影響があることを理解する 習得した知識をもとに批判 (反論) できる
5	警告文とパッケージを考えよう (宿題：身の回りの生活に広告等の誘惑はないか)	海外のパッケージや警告文の違いを理解でき、警告文を考えようとする事ができる
6	発表しよう (生活の中にある広告の誘惑を批判する) 仲間の発表を聞いて、気付いたことや感想	グループで発表し、代表者が全体に発表できる

第4時(以下「本時」とする)における授業展開概要を表2に示す。本時の学習の展開は、①飲酒や喫煙のきっかけや動機について理解すること、②広告のテクニックについて理解すること、③実際に

広告を分析する、の3つの段階から構成された、4名から5名からなるグループを編成し、グループによる学習活動が中心となった。展開①においては、グループでブレインストーミングを行い、各グ

ループからのキーワードを発表させ、きっかけや動機について全員で理解する活動であった。展開②は、タバコやお酒の広告について、全員でJKYBの「NICE II」より引用した広告のテクニックを確認した。展開③においては、展開②で学習した広告のテクニックを用い、各グループにタバコの広告を配布し、グループで分析を行った。分析手順についてはJKYBの「NICE II」を参考にワークシートを作成し、どのような登場人物やキャラクター、風

景、キャッチフレーズが使われているか、さらに広告のテクニックとしてどのように工夫されているか確認し、広告のイメージを理解させた。その後、これまで学習した知識をもとに反論することを、グループ学習で行った。

(4) 調査内容

本時においては、タバコやアルコールの有害性について理解した上で、広告を分析することが主な学習活動であるが、学習前の生徒の認識・理解

表2 「広告分析」授業の展開

本時の学習		
(1) 本時の目標		
<ul style="list-style-type: none"> ○ 飲酒や喫煙のきっかけや動機には他者との関係や環境が影響していることを理解できる。 ○ 飲酒や喫煙の有害性について得た知識をもとに、アルコールやたばこの広告を批判（反論）することができる。 		
(2) 本時の仮説		
<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習して得た知識を活用する場面を具体的に設定することで、習得した知識をもとに批判（思考・判断）することができるであろう。 		
(3) 本時の展開		
	学習内容	指導及び支援
はじめ	1 前時までの飲酒や喫煙の有害性の学習について振り返る。 （ニコチン、タール、依存症…） 2 宿題を確認する。 ① アンケートをもとに、4名グループをつくりブレインストーミング(2分)を行う。 ② できた言葉をグルーピングし、グループに命名しキーワードとする。	<ul style="list-style-type: none"> ○ それぞれの有害性についてキーワードとなる単語について説明させる。 ○ 協力してグループでの学習活動に参加させる。
なか	3 全体でBSの結果をまとめる。 ① 各グループから出されたキーワードをもとにきっかけや動機を確認する。 4 本時の学習のねらいを理解する。 ① 広告やCMの影響やテクニックを確認する。 ② 4名グループで広告について、科学的に批判する。 ③ グループで話し合ったことを発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各グループからできたキーワードを発表させ、分類する。 ○ 広告を批判するポイントを提示する。
まとめ	5 生活の中にある広告やCMの誘惑について理解できたか振り返る。 (宿題) 実際に自分の身の回りにある広告について調べてくる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 広告に対して、批判的に考えることが大切である。
(4) 評価		
<ul style="list-style-type: none"> ○ 飲酒や喫煙のきっかけや動機には他者との関係や環境が影響していることを理解できたか。 ○ 飲酒や喫煙の有害性について得た知識をもとに、アルコールやたばこなどの広告に科学的に批判することができるか。 		

状況や学習後の生徒の感想記述を分析対象とし、本時の学習が生徒の思考力にどのような影響を与えたかを検討する。

①飲酒や喫煙のきっかけや動機に関する生徒の認識
喫煙や飲酒のきっかけや動機についての生徒の認識・理解の程度を確認することが重要である。グループごとに「なぜ、飲酒や喫煙をするのか」についてBSを行い、出現したキーワードについて検討する。

②グループによる広告分析の結果

グループによる形態で学習を進め、広告のイメージやどのようなテクニックが使われているか、ワークシートの記述をもとに分析した。また、「広告分析」学習後の感想の記述についてKJ法を用いて分析した。

③課題「身の回りにある広告を分析しよう」の内容分析

広告に対して疑問をもつことを身の回りの生活の中で活用(探究)させることを意図し、生徒個人に宿題を課し、何に疑問を持ったかを対象と疑問点について分析した。

④生徒による授業評価

生徒による授業評価として七木田(2002)の「保健授業評価票」を用いた。14項目に3段階で回答を求め、「はい(3点)」、「どちらでもない(2点)」、「いいえ(1点)」とした。広告分析を行った本時(第4時)と単元における視聴覚教材の活用や実験、グループによる参加型学習等を導入した保健授業について、生徒による授業評価得点を比較し、検討を行った。

IV. 結果と考察

(1) きっかけや動機に関する生徒の認識状況

1単位時間や授業導入において、生徒のレディネスを確認することは、授業づくりにおいて内容的にも方法的にも重要である。本時における学習活動の導入として、グループにおいて「なぜ、飲酒や喫煙をするのか」についてBSを行った。全7グループに出現したキーワードは合計81個であり、27グループに分類されていた。以下の表3は、すべてのグループから抽出されたグループ名を指導教諭により分類したものである。

表中の内容は大きく「個人」に関する内容と「周囲の人」に関する内容に分類することができる。生徒は「きっかけや動機」について、吸ったり飲んだ

表3 きっかけ・動機についてのBS

ストレスに関するもの
ストレス発散(2)・ストレス・ストレス解消・疲れをいやす
周囲の人に勧められて
彼が飲む・環境(人)・無理やり・友達・友達関係
味に関するもの
味覚・おもしろそう・おいしいから・水代わりに飲む
精神的なもの
好奇心(2)・かっこつけ・気持ち・気分
気分転換
現実逃避・気分がよくなる・いやなことが忘れられる
その他
好きだから・依存・何となく・病氣

りする人自身に関するものと、周囲の人によるものが大きく影響すると考えていることがうかがえた。授業後の感想において、BSを行い、発表し板書により整理することで、自分では気付かなかったことに気づいたり、理解したりする様子が見られた。教科書や教師からの一方的な知識の教え込みによる学習でなく、グループ学習などによる参加型の学習形態をとることの意義が見出せる。

きっかけや動機について、生徒は「個人」と「周囲の人」の影響があることは認識できた。広告分析を学習することは、「広く社会」に関するものからも影響を受けることを新しく理解することになると思われる。広告に対してすべてを鵜呑みにするのではなく、疑問を持たせることも本時のねらいであることから、本時の授業展開においては、「個人」と「周囲の人」以外にも、「広く社会」に関するものから影響を受けていることを説明し、売る側の広告のテクニックについて全員で確認する活動へつなげることとした。

(2) グループ学習における広告分析

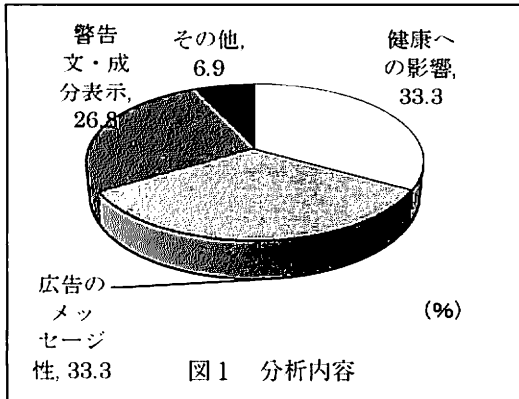
本時の展開における主な学習活動は、グループによる広告分析とした。その手順は、広告観察(キャラクターや風景はどのようなものが使われているか、キャッチフレーズとして何が書かれているか)、広告にどのような工夫(テクニック)が使われているか、広告のイメージ、広告で伝えられてい

ないメッセージは何か、で行った。分析内容は次の表4に示す通りとなった。イメージはタバコについて好意的あるいは楽しそう、さわやかな印象を与えるイメージであることがわかった。

7グループの広告分析の記述の内容は、全15文は図1に示す通りに分類できた。多かった記述は「血管が縮むことがはっきり書かれていない」や

表4 広告分析

グループ	キャラクター・風景など キャッチフレーズ	使われている工夫(テクニック)	広告のイメージ
A	犬・背景がすっきりしている あなたの味方、ベーシック登場	キャンペーン 注意書きが小さい	かわいい犬が写っているから害がなさそう 犬がかわいい 安そう
B	動物(ヒョウ)・暗い系(クール・カッコイイ) 極寒の一撃、カプセルつぶせば1.5倍のメンソール刺激	バーコードがある 値段とタール数が書いてある	クール系でメンソールのイメージ
C	水・さわやか きりっと冴える透明感	全部青色	透明感みたいな感じ
D	人・海・太陽 夏・きりっと冴える透明感	きれいな風景でさわやかな印象を与えている	澄みわたる気分 おいしそう
E	全身タイツの男性3人 フーハーヒー、3種3感	全体的に緑が使われている、ガムっぽいから気軽に買えそう。いかにもおいしそう。ジューシー感有り。インパクトが大きい。すっきり感の表現。	新商品のガムっぽい(ミント味)
F	日本地図で全国で吸われていますよ！の アピール・人 10億プッチ達成！！刺激はじける KOOLBOOST	みんな笑顔。プッチ！で強調している。手でつぶしている(写真)。楽しそう。	プッチ！ 楽しそう。みんなプッチでしてそう。たくさんの人がお勧めしている。
G	さわやかなお兄さん・そうかいな森 心ヲ解キ放ツ	これを吸ったら気分が晴れるような様子	そうかいMAX



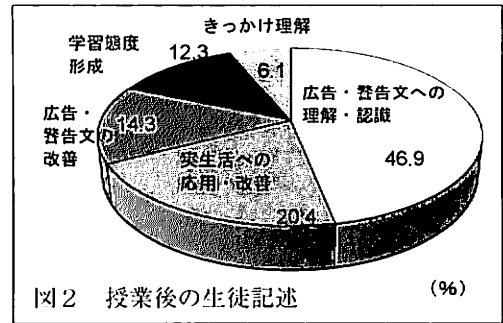
「依存するとやめられなくなるので健康に悪い」など「健康への影響」についてが33.3% (5文)、「広告ではみんな楽しそうにしているけど現実では…」や「広告なのに吸ってはいけませんと書かれ矛盾している」など広告の「メッセージ性」についてが同様に33.3% (5文)。「注意書きをもっと大きく書くべき」や「詳しく書かれていない」などの「警告文・成分表示」についてが26.8% (4文)となった。他には、「周りの人に迷惑にならないようなタバコをつくってほしい」が6.9% (1文)であった。

生徒が分析した内容は、本単元を通して学習した「タバコ」の有害性について習得した知識を活用したり、本時において学習した広告のテクニックについて疑問を持つような内容であった。「広告分析」は、生活の中にある題材を利用しており、習得した知識を活用して批判的に広告を分析(思考)することにつながったと思われる。

広告の中の警告文や成分表示について分析しているグループもあり 生徒がタバコの有害性と広告のもつイメージとのギャップを持ち、疑問に思っていることは、タバコの有害性について十分理解していることがうかがえる。

(3) 授業後の感想記述

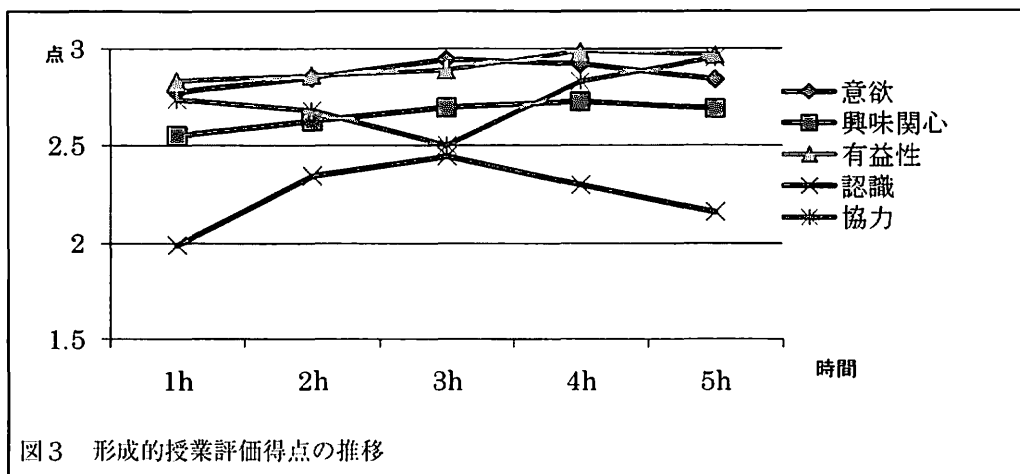
授業後の感想記述についてKJ法を用いて分類したところ図2に示す通りとなった。警告文の書き方が簡素になっているや改めて見ると誘っているキャッチフレーズが多くあったなどの「広告・警告文への理解・認識」が最も多く(46.9%)、次いで広告にだまされないように気をつけるなどの



「実生活への応用・改善(20.4%)」,日本も外国のように恐ろしさをあらわすべきなどの「広告・警告文の改善(14.3%)」,「学習態度形成(12.3%)」,飲酒や喫煙のきっかけが自分からというのが多かったなど「きっかけ理解(6.1%)」の順となった。警告文についての記述が多くなったことは、授業において指導教諭が、使用した広告に警告文の表示形式の違いがあることを説明したことも影響していると思われる。

(4) 生徒による授業評価

第4時の授業評価(図3)は、今後の生活や健康生活に役立つ、または活かしていこうとする態度を表す「有益性」が最も高く(2.99)、次いで学習意欲である「意欲」(2.92)、友人との協力活動や助け合い活動を表す「協力」(2.83)、学習内容についての追求や探究に関する「興味・関心」(2.72)、今まで知っていると思っていたものについての再発見や認識を表す「認識」(2.30)の順となった。本時の学習内容である広告のテクニックを理解し、分析をしたことに有益性を感じていることがあきらかになった。本単元を通して各観点の得点は、「意欲」や「興味関心」は平均して高い位置にあることがわかる。本時においては「認識」は低下傾向にあるものの、「有益性」や「協力」は得点の上昇が見られた。本単元の喫煙や飲酒に関して対象生徒の興味関心は高いと思われる。生活の中の題材である「広告」を利用し、グループによる学習活動により有益性が高められたと推察できる。



(5) 課題「身の回りにある広告を分析しよう」の内容分析

「他にどのような広告を疑問と思うか」についての課題に、「ダイエット(器具・クッキー)」、「酒類(チューハイ)」などが挙げられた。理由は、「警告文が小さい」や「実際に効果があるか疑問」などがあり、本時の「広告分析」の視点を理解していることがわかった。本時の実践や課題を通して、実際の生活にある事象(広告・警告文)への関心を高めたり、疑問を持ったりする様子が見えてきた。

V. 成果と今後の課題

中学保健授業における「広告分析」授業実践が生徒に及ぼす影響として以下のことが明らかになった。

○喫煙や飲酒のきっかけについて、対象生徒は「個人に関すること」や「周囲の人に関すること」から影響を受けていると認識しており、「広く社会に関すること」(広告やテレビCM)については、認識していなかった。

○広告分析を行うことで、生徒がタバコ広告にもイメージは、タバコについて好意的あるいは

表5 課題「身の回りにある広告分析」

広告の種類(全31個) 数字は個数を表す	疑問に思ったこと
ダイエット(ダイエット食品)12	警告文が小さい・詳しく書かれていない(8)
酒類(ビール・チューハイ)7	本当に効果があるのか(7)
タバコ2	お金が高い(5)
ニキビ・洗顔2	ダイエットの薬は体に悪そう(5)
以下はすべて1	実際にやってみて違っていた(3)
健康運動器具・料理道具・リフォーム	以下はすべて1
英語・洗剤・水・健康食品・本買い取り	ジュースと間違えるパッケージ・扱いにくい・どのくらい高く買ってくれるのか・外国語の表示はわからない

楽しそう、さわやかな印象であることがわかり、これを意図した広告のテクニックを理解できたと思われる。

○グループ学習で生活の中の「広告」を題材に扱い分析する学習は、生徒の保健授業に対する「有益性」や「協力」を高める結果となった。

○宿題として、身の回りにある広告について分析することで、アルコールやタバコの有害性などの習得した知識を活用するだけでなく、疑問を持ちながら広告を見ること(批判的に考える)となった。

未成年者の飲酒や喫煙などは問題視されており、飲酒や喫煙のきっかけや動機に関する学習も教科書で取り扱われるだけでなく、健康教育の分野においても教材が開発され、有効性も実証されている。本実践は、JKYBにより開発されて喫煙防止教育「NICE II」にある広告分析を教材として活用したものである。今回のように、既存の教材を授業の中に導入し、指導方法や学習形態を工夫することで「広告分析」教材の有用性が十分実証できたと考える。

引用・参考文献

春木敏・川畑徹朗・角谷温子ほか(2008)小学生を対象としたライフスキル形成に基礎を置く食生活教育プログラムの有効性. 学校保健研究 50: 247-263.

春木敏・川畑徹朗・西岡伸紀ほか(2007)ライフスキル形成に基礎をおく朝食・間食行動に関する教育プログラムの有効性を評価するための意志決定スキル. 目標設定スキル尺度の開発. 学校保健研究 49: 187-194.

JKYB 研究会編(2000)ライフスキルを育む喫煙防止教育「NICE II」. 東山書房: 京都.

川喜田二郎(1967)発想法. 中公新書.

川畑徹朗・石井哲也・近森けいこら(2002)思春期のセルフエスティーム, ストレス対処スキルの発達と危険行動との関係. 神戸大学発達科学部研究紀要 10 (1): 83-92.

文部科学省(2008)中学校新学習指導要領解説保健体育編. 東山書房: 京都.

WHO 編川畑徹朗・西岡伸紀・高石昌弘ほか訳(1997) WHO ライフスキル教育プログラム. 大修館書店: 東京.